

平成18年度試験研究成果書

区分	指導	題名	県中部におけるリンドウホソハマキ越冬世代羽化時期の変動		
[要約] 県中部におけるリンドウホソハマキの越冬世代の羽化時期は、従来より遅い6月中旬であり、また、防除適期も従来より遅い6月2半旬である。					
キーワード	リンドウ	リンドウホソハマキ	発生時期	病害虫部	病理昆虫研究室

1 背景とねらい

リンドウホソハマキの発生生態と防除法については、花き類病害虫発生予察実験事業で取り組み、越冬世代の羽化盛期は5月下旬と年次変動が少ないこと、防除適期は5月末～6月初であることを平成5年の参考事項に供した。ところが、近年、本種の羽化時期が遅れ、これに伴い防除時期も遅れることが明らかとなったので紹介する。

2 成果の内容

- (1) 県中部におけるリンドウホソハマキ越冬世代の羽化盛期は6月中旬であり、年次変動は少ないが、従来に比較して20日程度遅れる(表1、図1)。また、越冬世代の蛹は従来に比較して大きい(表2)。
- (2) 防除適期は従来の5月末～6月初より遅い6月2半旬である(図2、図3)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 越冬世代成虫の羽化時期が遅れた原因については具体的な解析データが乏しいので、今後継続調査を行う。
- (2) 今後さらに変動する可能性があるため、防除時期については病害虫発生予察情報を活用する。
- (3) 八幡平市安代町などの冷涼地における越冬世代の羽化時期は県中部より遅いと思われるが、従来から未検討である。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

県中部

(2) 期待する活用効果

防除適期に散布することにより、防除効果の低下や不要な殺虫剤の使用を回避でき、りんどうの低コスト高品質栽培の一助となる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H09-03) 植物防疫事業研究 (H09～H22、国庫助成)

6 参考資料・文献

- (1) リンドウホソハマキの発生生態と防除対策 (平成5年度指導上の参考事項)
- (2) 鈴木(1993) リンドウホソハマキの発生生態と防除 第1報 第1世代の発生活長と被害様式 北日本病虫研報44:178-180
- (3) 鈴木(1993) 第2報 第2世代の発生活長と被害様式 北日本病虫研報44:181-183
- (4) 鈴木(1994) 第3報 防除薬剤に関する2,3の知見 北日本病虫研報45:212
- (5) 鈴木(1994) 第4報 合成ピレスロイド剤の散布適期 北日本病虫研報45:213

7 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 リンドウホソハマキ越冬世代羽化時期の年次比較（北上市）

年度	羽化時期(月・半旬)			月平均気温()		
	20%羽化	50%羽化	80%羽化	4月	5月	6月
H.4年	5.4	5.5	5.6	8.7	12.9	18.3
5年	5.5	5.6	6.1	7.5	13.9	18.3
6年	5.5	5.6	6.3	9.1	15.1	18.6
7年	5.4	5.5	5.6	9.3	15.3	17.8
16年	6.1	6.3	7.2	8.6	14.9	19.5
17年	6.2	6.4	6.5	8.9	12.8	20.1
18年	6.1	6.3	6.6	7.1	14.6	18.7

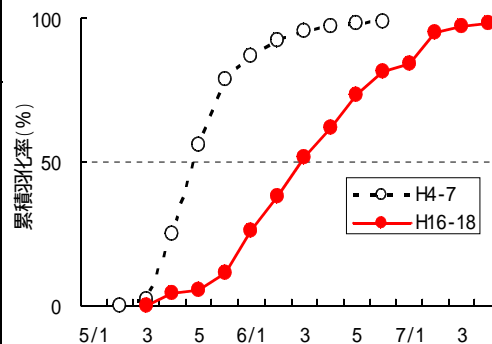


図1 リンドウホソハマキ越冬世代の羽化消長

摘要（表1、図1）

- ・近年の越冬世代の羽化は6月上旬から始まり下旬まで続く。羽化期間は従来より長い傾向にある。
- ・羽化盛期は6月中旬であり、年次変動は少ないが、従来に比較して20日程度遅れる。

表2 越冬世代蛹の大きさの比較

年度	蛹長別の割合(%)				平均蛹長
	<5.5mm	5.6-6.0mm	6.1-6.5mm	6.6mm<	
H.4-6	35.5	44.1	13.3	7.1	5.74mm
H.16-18	5.2	27.4	51.3	16.1	6.21mm

摘要（表2）

- ・越冬世代の蛹は従来に比較して大型化している。

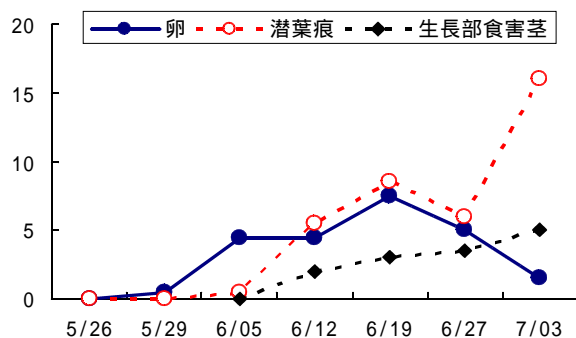


図2 第1世代の卵、被害消長(2006)

注1)20茎調査の10茎当たりの数値を示す

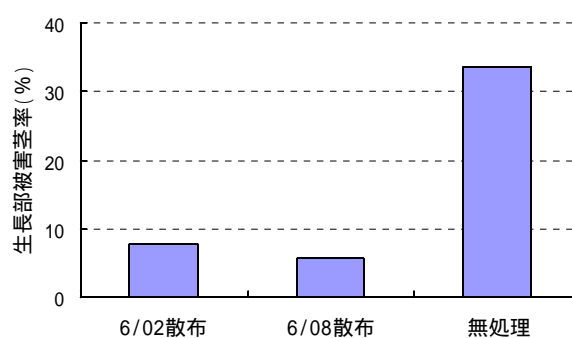


図3 第1世代防除試験(2006)

注1)供試薬剤：アディオフロアブル 1500倍

注2)調査時期：7月3日

摘要（図2、図3）

- ・第1世代の卵は5月末に初確認され、6月4半旬に産卵盛期となった。孵化幼虫の潜葉は6月1半旬、生長部の食害は6月3半旬に初確認され、以後増加した。
- ・従来の防除適期である6月2日散布と比較して、6月8日散布は防除効果が優った。
- ・従来の知見ではアディオフロアブルの卵に対する残効期間は3週間なので、6月8日散布は6月末まで殺卵効果を有していたと考える。